

2学期の成長 ～実りの秋～

今週は寒い中、2学期末個別懇談会にご出席いただき、誠にありがとうございました。担任から、この2学期で児童の伸びた点（成果、がんばり等）と、冬休みや3学期に向けての課題をお聞きいただいたことと存じます。

伸びた点については、**ご家庭でも認め、思いきり褒めていただきたい**です。一方、課題については「大丈夫、乗り越えられる！」というメッセージを伝えながら、**改善に向けての励ましや目配り**をお願いしたいと考えています。よろしくお祈りします。

ネット依存 うちの子に限って ～「あひルのおやコ」の徹底を！～

先日の新聞に、小・中学生と高校生のネット依存に警鐘を鳴らす記事が掲載されました。（裏面参照）それを見ると、中学生の12%が1日に4時間以上、インターネットを利用しています。本校の情報アンケート（6月実施）によると、4時間以上の通信機器の利用は、平日は2人ですが、休日になると14人が利用していることが分かりました。早速1学期に指導したところでした。

また、ネットで知り合った人に「会ったことがある」と回答している高校生が、14%となっています。本校の情報アンケートでは、幸い温小にそういう児童はいませんでした。

しかし、全校児童数の160人が高校生になったと仮定すると、単純に14%を乗じた場合、人数は22人にもものぼります。それだけの人数が犯罪に巻き込まれ、命の危険にさらされることを想像しただけで、本当に恐ろしくなります。

別の記事では、「スマートフォンの普及により、学校に通っている『怠学、非行のない目立たない子』が買春事件に巻き込まれるケースが増えている。加害者は、会員制交流サイト（SNS）で、言葉巧みに接近している」と書かれていました。これから冬休みとなり、家庭での自由な時間が増えます。学校だより第15号に記載した「あひルのおやコ」の中でも、特に「あ：会いに行かない」・「ル：ルールを守る」・「コ：コミュニケーションを大切にする（保護者は児童・生徒の使い方を把握する）」の一層の徹底をお願いします。

「普通」とは ～児童（本校5年女子）の感想文（特選作品）から学ぶ～

題名 今までの普通 今からの普通 書名「自閉症の僕が跳びはねる理由」

自閉症の人の中には、毎日、普通の人中心の社会で苦しんでいる人たちがいます。家から一歩、外へ出ると、自分の意思ではおさえられない言葉や動きをがまんして生活しないといけないのです。私だって、くしゃみが出そうなのに、急に鼻や口をおさえられてくしゃみを止められると、とても気持ちが悪いです。自然に身体に起こることを他人に止められると、腹が立つし、悲しいし、色々なネガティブな感情がおしよせてきます。**くしゃみという一瞬のことでもそう思うのに、毎日だと自分らしく生きることを止められて、心が折れそうになるのではないか**と思います。

本の中で、「人に自分の苦しさを知ってもらうより、終わったこととして見る方が簡単」と書いてあったことが、とても心に残っています。ネガティブな感情をくり返して感じることで、自分を守るために心に壁をつくったのだと思いました。（中略）

自閉症の人が心に壁を作らないですむように、**みんながお互いの存在を理解して生きていける社会になればいいのにな**、と思いました。そのためには、色々な障害を持った人のことをまず知って、相手の存在を認めて、相手がどう接してほしいのかを話し合えることが大切です。普通の人自分たちの「普通」を作って、そこから外れた人を「変だ。こわい。」と思っているだけでは、世界中の全ての人が認める「普通」なんてないのではないかと思います。

障害も一つの個性だと、心の底から言える日が来たらいいなと思います。

あなたの「普通」は、本当にみんなが認める「普通」ですか。私の「普通」は、この本を読んで大きく変わりました。

これからも、たくさん本を読んだり、経験を積んだりすることで、自分の中だけの「普通」の世界を、ちがう立場からも見られるようになっていきたいと思います。

